

特別教育研修講演

2. 自信を持つ次の世代を育てるには

柳 沢 幸 雄*

長年、環境学の研究をネタとして、大学院生、大学生、そして現在は高校生、中学生の教育を行ってきた経験から、成長曲線の重要性を確信しました。成長曲線とは、学習曲線、またロジスティックカーブとも呼ばれる、S字型のカーブです。

「すべての成長はS字カーブを描く」という認識が、自信を持つ次世代を育てるうえで、またわれわれの日常を考えるうえで、キーになる概念だと思います。

グラフの横軸を努力量、縦軸を成果にとったとき、両者の関係は「S字カーブ」を描きます。努力と成果は決して正比例の関係ではありません。何か新しいことに挑戦したとき、はじめのころの努力は、なかなか成果として現れません。成果に関してしばらく何の変化も感じられない時期が続くと、ある日成果がほんの少し実感できるようになります。たとえば英語の勉強を続けていると、ある日、それまでは機関銃の音のようにつながって聞こえていた英語が、単語ごとに区切られて聞こえるようになります。この瞬間が最も重要な瞬間です。ここを「立ち上がり」と呼ぶことにしましょう。

自信が生まれるのは、まさに「この瞬間」です。「立ち上がり」を迎えるまでは、本当にこれが自分に向いているのか、自分は正しい努力をしているのか確信が持てずにいたことも、「この瞬間」に「これでいいんだ!」と思える。

さらにいえば、「伸びる人」と「伸び悩む人」を分ける最大のポイントも、この「立ち上がり」にあります。これを無事に越えられた人が「伸びる人」、越えられずに脱落してしまった人が「伸び悩む人」です。

「S字カーブ」をもう少し詳しく見ていきましょう。「S字カーブ」は「無風状態」「立ち上がり」「成長の好循環」「壁」で説明できます。

「さあ!」と何かを始めても、最初はまったくの無風状態。「無風状態」とは、努力が成果につながらない時期。何事も、最初はいくら一生懸命に努力を重ねても、なかなか成長が感じられません。成果が出ないことにイライラして、「このままやってもしかたないかもしれない」とあきらめたり、面倒になって脱落してしまったりする人が出てくるのが、この時期です。

無風状態を耐えて「立ち上がり」のポイントを超えると、一気にカーブが立ち上がり、ググッと伸びていきます。

成長を続ける人は「S字カーブ」を何度もつなぎ合わせられる人。「最初のサイクルが終わった=壁にぶつかった」と感じて、また次の「立ち上がり」が始まるまで努力を続けられるかどうか。そこがミソです。

ちなみに「昔取った杵柄」というのは、一番上達した地点からちょっとだけ下がったところに留まっている状態。私の経験からいうと、一つのこ

*東京大学名誉教授、開成学園校長 yukio@kaiseigakuen.jp

注：本論文は諸般の事情により抄録原稿を掲載した。

とをだいたい3年くらい続けると、ここに至ります。「壁にぶつかる」まで続けなければ、時間も労力もムダになります。

見かたを変えれば、壁にぶつかることも一つの成功体験。成長を感じられなくなった事柄は、すでに習得した事柄。最初のハードルを越えて、一つの成功体験を積めたと胸を張って次に進めばいいのです。

人間というもの、一度でも「やればできる自

分」を認識すると、自信を持ちます。その心地よさを体が覚えているから、「あの感覚をもう一度、得たい」と思い、がんばるためのモチベーションにつながっていく。

ですから、成長するためには、何がなんでも一度は「壁にぶつかった」と感じるまで続けること。その前にやめってしまうと、費やした時間も労力もすべてムダになってしまいます。